



廣實様からは「相撲やハンドボールをはじめ、平田地区に住むかわいい子たちが今もこれからも活躍することが嬉しい。」というご挨拶をいただき、三原様からは子どもが学校を卒業しても来てもらえるように、ふらっとネットとの事業で健康作りの会を開き、最後には地域と中学生の交流会を行ったこと。そしてそれが全国紙に取り上げられたとのお話がありました。

学校に関わるということは、保護者として子どもがいるから、

孫がいるからではない。本当に平田地区のことを、平田の子を、平田の未来を考え
て学校に関わってくださっているのだと感じました。

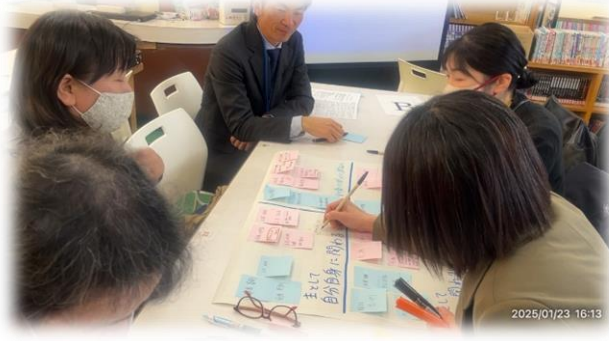
私自身も我が子が小学生の頃、土日は部活動指導で、家を空けることが多く、ひらたげんきこクラブでスライムづくりをさせていただいたり、グリーンキャップの方が暑い日も寒い日も雨の日も子どもたちの登下校を見守ってくださったり、地域の皆様に育てていただきました。親だけではなく、学校だけでもなく、バックには沢山の方がついてくださっている安心感の中で子育てができました。それは我が子の入学前も、そして今でもずっと続いています。

今日の学校運営協議会では、最初に小中学校の授業や学習の取組、児童生徒の生活全般について、地域連携について、各担当の先生方から分かりやすく説明が行われました。また、校長先生方からは小中一貫の報告がありました。

1月8日、立哨をしていると何人かの小学生が「あけましておめでとうございます」と+αの挨拶をしてくれました。これに感動していると、両校の始業式の式辞の中で、白川校長先生は「今朝、小学生がこんな素敵なあいさつをしてくれた。中学生も挨拶をよくしてくれたと電話があった。」福屋校長先生は「小学生のことを褒めてくださった、中学生もいつも元気に挨拶をしてくれる。」と朝の情報交換をすぐに児童生徒に価値付けされました。これこそ、小中連携だと思いました。

ふるさとネット協議会における熟議

テーマ「今、平田の子ども達に身に付けさせたい道徳性とは」



やまぐちっ子の心を育む道徳教育推進校の指定を令和4・5年度平田小学校、令和5・6年度平田中学校が受け、校内研修の柱に「道徳科の授業」を立てて取り組んでくださいました。

今年度11月1日には平田中学校で、研修成果を発表する場として、道徳授業セミナーが開催されました。県内各地から多くの方が研修会に参加されました。そして、学校運営協議会のみなさんも3年生の道徳の授業に参加してくださいました。そこに至るまで、全学年の授業の指導案検討を小中合同研修会で行い、各部会でこの研究を児童生徒や教職員、保護者や地域にとって価値あるものへと結びつけてくださいました。3学年どれもが提案性のある授業で大変好評でした。

指定校としての研究終了と同時にピリオドを打つのではなく、研修を経て、平田小中学校の道徳教育がより一層充実するために、またこの事業を継続的に取り組むために、今日の熟議が行われました。



道徳科の内容項目をキーワードとし、青の付箋に「平田の子ども達が身に付けている標語」赤の付箋に「平田の子ども達に身に付けさせたい標語」を記入し、協議しました。

「感謝」

小学生が最近、横断歩道を渡り終えた後、振り返って礼をしてくれる。これは中学生の姿がお手本になっている。

思っている、心のこもった言葉として伝えることができるようになってほしい。

「勤労奉仕」

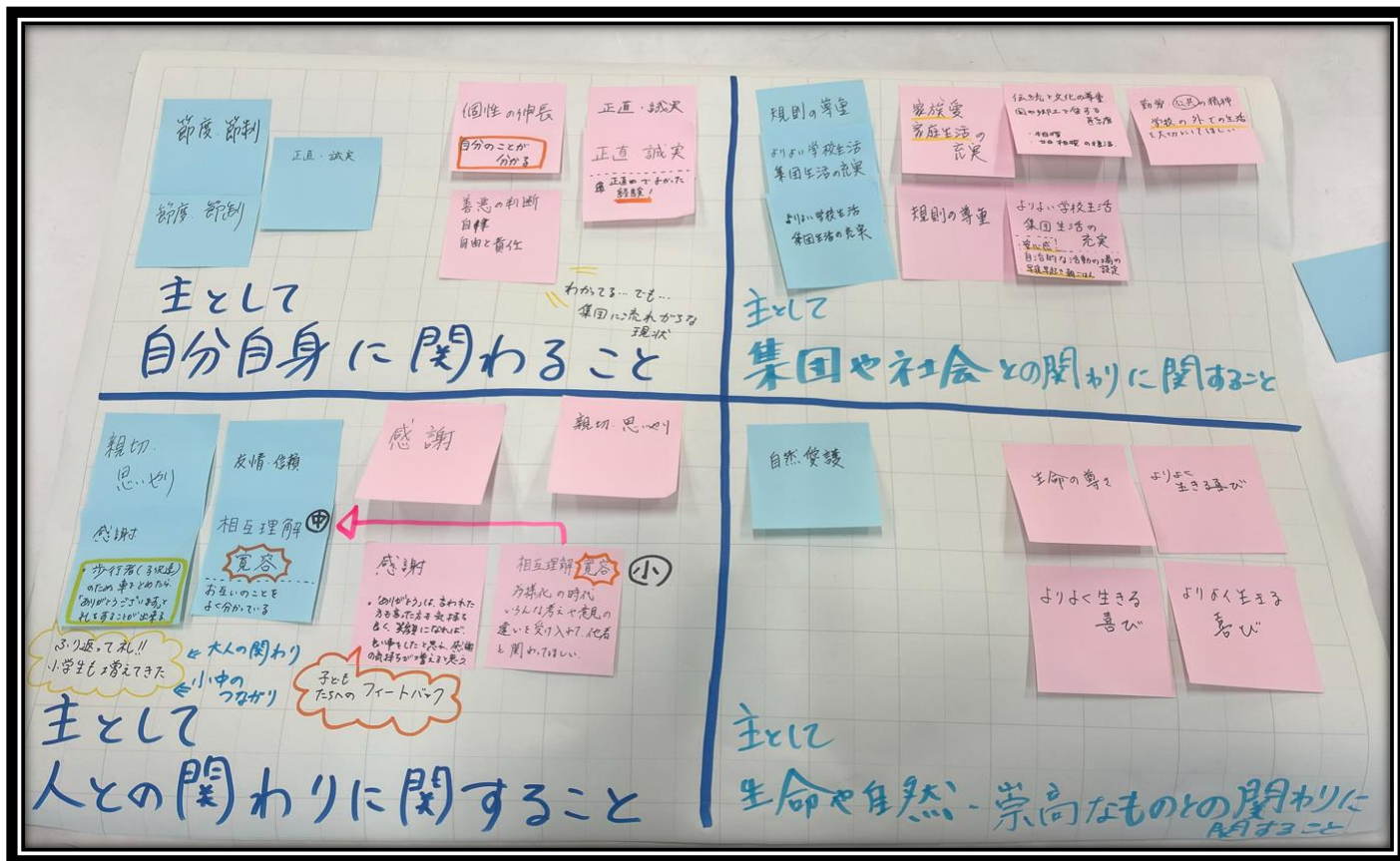
小学生も中学生もよく掃除をする。もう少し、積極的にボランティア活動をしてほしい。

「友情」

平田の子は小中一緒なので成人しても仲間意識が強く、仲がよい。

「親切、思いやり」

親しき仲にも礼儀あり。友達に対しての言葉遣いや物の扱いについて考えてほしい。



地域の子、保護者の目、教職員の目で平田の子ども達への思いが語られました。子ども達には『こんなに地域の方から愛されているのだということ』そして、子育てに悩んでいる保護者の皆様には『こんなに素敵な応援団がついているのだということ』をもっともっと、知ってほしいと思いました。そして、この温かい平田で育つことにより、グループ協議の中にも、そして最後の福屋校長先生のお言葉にもあった「相互理解」を深め、次の世代へとバトンをつないでほしい。いや、我が子がしていただいたことを、私自身も、できることをやっていきたいと改めて思いました。

今年、「二十歳のつどい」のお手伝いに行きました。出席者の若者は市民憲章と市歌を大きな声で唱和したり、歌ったりしてくれました。岩国が好き、平田が好き、帰ってきたらほっとする、そんな平田であり続けることができるように。皆がふるさとを愛し、誇れる地域にするために、今後ともよろしくお願いします。

岩国市教育委員会 学校教育課 指導主事 藤高 有美子